

「人道上人類歴史最大の悲劇」—第2次シリア・ボランティア報告
「世界は瀬戸際に立たされている」

2018年2月17日

エラスムス平和研究所

所長 岩村 義雄

主題聖句: エレミヤ 22:3 主はこう言われる。正義と恵みの業を行い、搾取されている者を虐げる者の手から救え。寄留の外国人、孤児、寡婦を苦しめ、虐げてはならない。またこの地で、無実の人の血を流してはならない。

<序>

今年になって、2回目の中東訪問。トランジットで立ち寄るカタール国の首都ドーハまでカタール航空の機内にはたくさんの日本人旅行者がいました。ドーハからはひとりも日本人はいなくなりました。それもそのはずです。日本政府の外務省は、渡航を自粛するように警告を発信しています¹⁾。レバノンのベイルート空港で厳密な入国手続きをします。「日本人か」とは一度も問われませんでした。なぜなら中国人、韓国人は見かけることがあっても、日本人は訪問していないからでしょう。福祉施設で介護の仕事をしていた香田証生[しょうせい 1979-2004]さんがテロに巻きこまれた際、日本のメディアが小泉純一郎元総理の「自己責任」という言葉の非難色を伝えたことによって、人道的救出を断念する空気が高まりました²⁾。「弱きを助け強きをくじく」「Side with the weak and crush the strong.」という武士道の精神がかつては日本にはありました。庶民がふつうに持ち合わせていた道徳観「惻隠(そくいん)の情」が失われてきました。惻隠の「惻」は、同情し心を痛める意。「隠」も、深く心を痛める意。人が困っているのを見て、自分のことのように心を痛めるような、自他一如(いちによ)の心もちです。

本来の「責任」の取り方とは、人道的に困っている人がいるなら、国のメンツをかけてたとえたった一人の「いのち」であっても救出する姿勢ではないでしょうか。テロ側のいかなる要求をも呑むぐらいの責任感を示して欲しかったものです。人質にされた本人に、また紛争の犠牲になった人たちへの「共感」が響き合わない民は不幸です。経済にしても、一握りの人だけが潤沢になり、大企業の内部留保、社員への分配より株主優先、弱者切り捨てが平然と行われるようになってきたエートスと平行しています。政治も2011年3月以降の日本史上稀有な規模の自然災害復興よりも、成長路線を主導しています。2020年オリンピック、リニア、原発再稼働と蜃気楼のような不確実な政策で民をマインドコントロールしています。大学は基礎学力を身につけるより、グローバルな企業戦士を育てるため専門学校化しています。文学部を切り捨て、工学部だけに技術国家の命運を託します。また、一般社会と同じように、少子化で学校運営ができない故に非常勤講師ばかりを雇い、本来の学問研究が衰退しています。

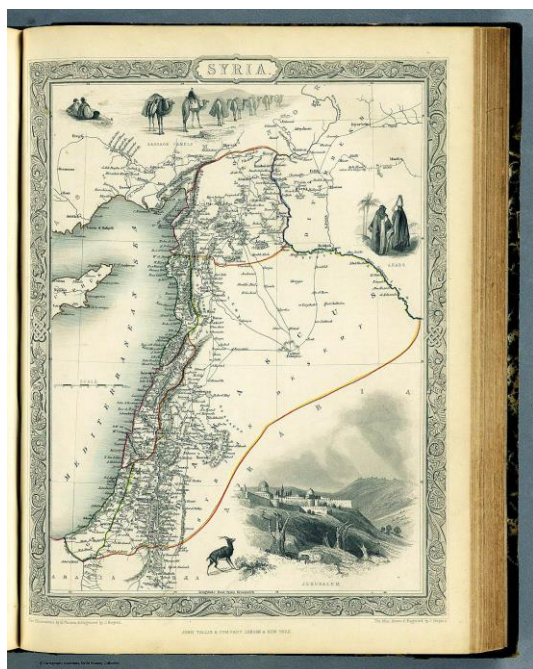
一方、中東に行くと、親子、夫婦、家族の親密さに日本人はたじろぎます。抱擁や頬への接吻は男同士でも行い、ぬくもりのある縁は、日本人がどこかに棄ててしまったと言えないでしょうか。共同体の生命線が損なわれてしまっています。

2011年3月の東日本大震災と同じく、シリアに利権に目ざとい大国の魔手が忍び寄り、民は復旧、復興、再建ができない呻き声を発しています。いつから日本人は、我が身しか考えない薄情な民になってしまったのでしょうか。

平澤久紀兄とシリア人難民への救援に向かった体験を報告させていただきます。

(1) シリア

a. どんな国



シリアは西アジアの西の部分にあって、面積は日本の約半分人口は約30分の一、緯度は日本と同じく北緯33~36度の間にあります。私たちが訪問した2018年2月7日、シリア西境のアンチ・レバノン山脈には深雪に覆われていました。ベイルートからはベッカー高原を通りました。西にはクルナ・アッサウダー山(3088 呎)があり、スキーを楽しむ人々がいると耳にしました。ベイルートの北東約85kmを過ぎたあたり、ベッカー高原の中央にある古代遺跡 フェニキアの神ハダド(バアル神)が祀られていました。ユネスコの世界遺産になっています。山と言えば、イスラエルとの国境にはヘルモン山があります。イエスが変貌した山と言われています。(マタイ17章)。

大シリアの地図 ウィキペディア

他のアラブ諸国の街と比べてみると、シリアの首都ダマスカスは森が多く、バラダ川が中心に流れています。エジプトのカイロはナイル川流域ということですが、砂漠の中の都市というイメージがあります。しかし、ダマスカスはオアシスらしい生活習慣があつて、決して川自身はきれいではありませんけれど、お茶とか、お弁当とかを持って、夕涼みを楽しんだりします。ダマスカスの人たちは自分たちのことを「シャーム」と言います。「シャーム」というとアラブ世界において数少ない穀倉・農耕地帯であるシリア地方(シリア・レバノン・パレスチナ・ヨルダン)を指します³⁾。元来は「大シリア」と呼ばれる文化的共通地帯でした。

b. 聖書にゆかりの深い地域

シリア地域はアルファベットの発祥の地であります。フェニキア人は地中海、紅海などの海洋貿易だけでなく、チグリス・ユーフラテス川に添っているメソポタミアで活躍していました。メソポタミアの楔形文字とエジプトのヒエログリフの良いところを用いて、アルファベットを作ります。ヘブライ語で書かれた死海文書では、神名テトラグラマトン YHWH に限ってフェニキア文字を用いました。



一番下の行に、フェニキア文字の4文字がヘブ

ライ語の中にある。

メソポタミア地方は農耕に適した肥沃な三日月地帯と呼ばれています。遊牧民であった部族が定着して大都市が誕生していきます。アブラハム(アラビア語イブラヒム)は一族すべてと共に現在のイラクのウルから神の「約束の地」と信じて移住してきました。後の時代に、エジプトで苦役していた民もモーセ(アラビア語 ムーサー)に引き連れられ、乳、蜜流れる地としてカナンにやってきました。

シリアは、かつてのヨルダン、レバノン、イスラエルなど全部を含めての地域を指していました。

ソロモン[紀元前 1011 年頃-紀元前 931 年頃]王が支配した地域について、聖書の記録では現在のシリアが含まれています⁴⁾。

歴代誌第二 8:4 荒れ野のタドモルと、ハマト地方の補給基地の町をすべて築き上げた。

列王記第一 5:1 ソロモンは、ユーフラテス川からペリシテ人の地方、更にエジプトとの国境に至るまで、すべての国を支配した。国々はソロモンの在世中、貢ぎ物を納めて彼に服従した。(他訳は 4 章 21 節)。

栄耀栄華を極めたソロモンの支配区域は東境のユーフラテス川から南はエジプト、北は現在のトルコのアンティオキア、西は地中海のキプロス島まで版図でした。

やがて、アッシリア、バビロニア、メディア・ペルシアなどの強国が交替しながら支配していきました。

アレキサンダー大王、ローマ帝国にいたるまで東西交易の中心となりました。国際都市パルミラはアラム人、アラブ人、ペルシア人、ユダヤ人が住みついていました。

7 世紀にイスラーム教の預言者ムハンマドが生まれ、イスラーム教徒の勢力が爆発的に増え、ウマイヤ朝時代にダマスカスが首都になりました。

クルド人サラディン[1137-1193]は十字軍を駆逐します。しかし、キリスト教徒にはエルサレム巡礼を認め、サラディンは捕虜を寛容に、丁重に扱います。オスマン・トルコ帝国の時代になってもイスラーム教はシリアの人々の求心力でした。

c. 現代のシリアの地勢

ヨーロッパ諸国において資本主義が発達し、伸張していくと、中東も影響を受けるようになります。オスマン・トルコ帝国が弱体化していくにつれ、ドイツ、英国、フランスは中東を足がかりにアジアに進出します。ヨーロッパはアジアの中国、インド、アフリカの植民地支配に狂奔することとなります。

同時に中東でもアラブ民族主義運動が起こり、独立の声が高まります。

第一次世界大戦[1914-1918]後、オスマン帝国は解体され、1922 年国際連盟において、イギリスとフランスの二国によるシリアの分割支配が決議されました。イギリスはトランスヨルダン地方とパレスチナ地方を奪い、フランスは現在のシリア・アラブ共和国およびレバノンを奪ったのです。イギリスはアラブの諸民族とイスラエル民族に独立を示唆しながら、その裏ではフランスと分割について密約を行ない、三枚舌外交で翻弄します。

大国が領土の国境線を勝手に決めたために、中東の悲劇を收拾できなくなってしまったのです。

したがって、欧州が中東分断の導火線であることは歴史的事実です。

(2) シリア 日本の報道はどこまで真実か

a. 2011 年 3 月に何があったのか

2011年3月、シリア南部の都市ダルアー。前年末からチュニジアやエジプトで発生した大規模な民主化デモ「アラブの春」に触発された少年15人が、学校の壁に政府批判の落書きをしました⁵⁾。

2001年の「9月11日の米国同時多発テロ事件以来、米国のあらゆる外交は『テロとの戦い』に集約されているように見える。そして世界の外交もこのアメリカの『テロとの戦い』に異論を挟む余地がないようだ。……アメリカの『テロとの戦い』と符合をあわせるかのようにイスラエルの対パレスチナ攻撃もかつてない規模で繰り返されている。オスロ合意以降の和平の積み重ねは完全に崩れ去った。国際社会はなら有効な手を打てないでいる」とレバノン大使を経験した天木直人氏は語っています⁶⁾。

過激派組織「イスラム国」(IS)のナイフによる斬首を悪魔の所業と世界に恐怖感を植えつける宣伝をしながら、空爆により無差別にシリア市民を殺戮するアメリカは正義と言い切れるでしょうか。日本の報道では絶対にわからない闇があります。



2017年8月21日 米軍によるラッカ攻撃

市民ジャーナリスト集団“RBSS”(Raqqa is Being Slaughtered Silently/ラッカは静かに虐殺されている)は「イスラム国」の本拠地であったシリアのラッカを2017年追い出されました。ラッカの死者は3259人に及びます。内訳は「イスラム国」による被害者は548人にすぎません。残りの63パーセントは米軍などの空爆の犠牲になった人々です。



2017年12月28日
ラッカから脱出した難民
マリッシュ

2018年2月8日
アルサール近くのラッカからの難民

米国大統領の安全保障担当補佐官、マクマスター陸軍中將は「ベトナム・アフガン・イラク戦を通じ米国政府は戦争をテクノロジーで解決できると考えてきたがこれが間違いであった。戦争は昔も今も

政治的で人間的なものである」と言っています⁷⁾。

「米政府はシリア情勢で取りあえず『何かをした』という形を残せばいい考えのようだがこのやり方は最悪の選択だ 2006年、ドイツもアフガニスタンで55名死者」、というような具合です⁸⁾。

私たちが中東を離れる2月10日、イスラエル空軍は12箇所を空爆していました。

b. アサド政権が諸悪の元凶なのか

シリアはアラブの春に逆行し、アサド政権がサリンなど化学兵器を用いているという米国の宣伝によって、アサドが自国民をジェノサイド[集団殺害]しているかのように、日本の多くの識者は受けて止めています。欧米メディアでは、アサド政権が「悪魔の独裁政権」「残虐な殺人政権」のような一方的な報道をしています。しかし、私たちが出会ったシリア人はアサド政権を支持している人たちが多かったことは事実です。反政府勢力の方がむしろ孤立している印象をもちました。

アサドについて、隣国のレバノンの人々はどう考えているのでしょうか。レバノンでのマロン派キリスト教徒の存在は大きいです。キリスト教徒の代表ともいべきベシヤラ・ライ総主教は、2012年3月にベカラ・ブートロス・ライ総大司教は、2012年3月にアサドについて発言しています。「我々は今アラブの春を生きているというが、この春は暴力と殺し合いに満ちて、冬に向かっていくというべきだ。武力では改革を実現できない。失うもの、損害が計り知れない規模になる。……シリアのバアス党政権はたしかに大変な独裁政権だ。しかし、アラブ世界を見てみれば、どこも独裁政権ではないのか。そして皆イスラム教を国教としている。しかし、シリアは違う。その分、シリアは民主主義にもっとも近い国だといえる。自分は何もシリアを擁護しているのではない。だが、シリアが一步前進しようとしているとき、暴力と破壊が猛威を振るっているのは何とも不幸なことだ⁹⁾」、と駐シリア特命全権大使を務めた国枝昌樹氏は引用していました。

ISが勢力を拡大し、ラッカを拠点にして、シリアで勢力を伸ばしたのはなぜでしょう。世界がアメリカやイスラエルを支持し、アサド政権と反政府側の内戦に無関心であったことが最大の要因と考えられます。「もっと早くに内戦に折り合いをつけることができているならば、ISがこれほど勢力を拡大することもなかった」という報告もあります¹⁰⁾。

元レバノン大使が米国の怒りに怯えるアラブの為政者たちへ向かって、「テロとの戦いに協力せよ、さもなければテロ組織と同罪である¹¹⁾」、と迫っていると紹介しています。欧米諸国は自分たちの都合の悪いニュースは隠蔽してきました。生物兵器、サリン、大量破壊兵器などを所持していると、一方的に敵国とみなすような報道をして国際世論を誘導してきた陰謀は歴史が証明しています。

欧米勢力は、本当は矢継ぎ早にアラブ圏を崩壊させたかった意図があったようで、リビアの崩壊劇も非常に強引でした。カダフィ政権は民衆の蜂起で自然に倒れたのではなく、無理やり欧米勢力に崩壊させられたのです。

ドイツも長くつづいた「専守防衛」の立場を90年代に転換し、アフガン戦争に「後方支援」の限定で派兵しました。前線も危ないですが、兵站(へいたん)こそ狙われるのは常識です。「後方支援」という言葉は、兵站という戦争行動をごまかすために使われはじめました。

ここシリアでも、「何が何でも」アラブ圏の既存政権を崩壊させるという大国の意図が見えます。21世紀になってからのアラブ圏の動静をみてみましょう。

2001年 アフガニスタン崩壊

2003年 イラク崩壊
2009年 (イラン崩壊に失敗)
2011年 チュニジア崩壊
2011年 エジプト崩壊
2011年 イエメン崩壊
2011年 リビア崩壊
2012年 (シリア崩壊に失敗)

あまりにもアメリカ目線であった故の内戦の泥沼化がイスラエル空爆とISの伸張の引き金になったことについて世界は覚醒しなければなりません。

c. ヒズボラ

ヒズボラと日本で聞くと、反政府テロ組織の牙城のように聞こえます。

「内戦が続くシリアでは、イランやレバノンのイスラム教シーア派民兵組織ヒズボラがアサド政権を支援している」と報道が繰り返されます¹²⁾。

ヒズボラとは、レバノンのシーア派系イスラム原理主義政党であり、「神の党」という意味です。法学者フセイン・ファドラー師が精神的指導者といわれています。1982年のイスラエルによるレバノン侵攻後にイランの援助を得て発足し、シリアからも支援を受けています。

ヒズボラは合法的政治組織であり、シーア派を中心にレバノンでも民の支持が強いのです。1992年の総選挙に政党として初参加。イスラエル軍およびイスラエルが支援する南レバノン軍(SLA)に対する攻撃を繰返す同名の民兵組織をもち、パレスチナ解放機構 PLOの進める中東和平には反対の立場をとっています。1996年4月にはイスラエル北部へのロケット弾攻撃を激化させ、これに対しイスラエルも反撃を強めました。しかし、ヒズボラは欧米人や日本人が考えるテロ集団ではないことはベイルートに行きますとよくわかります。レバノンの国内においては国会議員128名の内10名がヒズボラです。つまりヒズボラはれっきとした合法組織です。レバノン・日本友好議員連盟にもヒズボラのメンバーも含まれており、交流しています。

国連はレバノンとイスラエルの国境に沿ってブルーラインを設定しました。すべてのレバノン領土からイスラエル軍が撤退するように安保理決議425を1978年に採択し、イスラエルに撤退を迫りました。シエバ農地、14の農村からなる25平方キロメートルが再び紛争の火種になっています。シリアとイスラエルのゴラン高原の領土紛争として未解決のままと同様です。ヒズボラがブルーラインでイスラエル陸軍の侵入を防いでいるおかげで、レバノンではヒズボラは人気が高いのです。

イスラエル軍は中東訪問中の2月10日、シリアにあるイランの軍事施設など少なくとも12か所を空爆しました。イスラエルはまさに中東のやくざのような驚異的な存在です。

イスラエルは、周辺国から憎悪を受け続けながら存続している国です。憎悪を向けられれば向けられるほど、それに対して強硬な軍事攻撃で相手を黙らせてきました。

1982年のレバノン戦争による一方的なPLO・シリアの敗北後、イスラエルは残る半分についても食指を動かしはじめました。「イ・イ戦争」(イラン・イラク戦争 1980-1988)が激しさを増すにつれ、イスラエルはその裏側でエルサレム市の完全支配を始めようとしています¹³⁾。

「イスラエルは無抵抗の市民に対する国家的テロをほしいままに続行しています。その結果アラブの民は、絶望と悲運の中に過激な行動に走るほかにはすべのない状況に追い込まれています。……イスラエルは常に武力の優位という幻想に固執し非妥協的な強行政策のみが自らの安全保障をもたらすと信ずる国です」¹⁴。

「日本のマスコミはイスラエル市民が死んだときはテロの犠牲者として悼むが、パレスチナ人がイスラエルの戦闘機で爆死させられても報道しない」¹⁵。

ダマスカスでパン屋を営むアイユーブさん(48)は、政府が化学兵器を全廃するという約束をしても、「米国が次にどんな文句を言ってくるか分からない。反体制派の支援も続け、内戦を長引かせるつもりだろう」と、米国への不信感をあらわにしたと、共同通信社の津村一史記者は指摘しています¹⁶。

したがって、いろいろな報道、政府の発表をうのみにしてはいけません。歴史学者ハワード・ジン[1922-2010]は「政府は嘘をつくものです。ですから歴史は、偽りを理解し、政府が言うことを鵜呑みにせず判断するためにあるのです」と述べていますが、その言葉に留意しなければなりません¹⁷。

「国家が人間に対していかに恥知らずな振る舞いをするか、こんなことを知ったのはわたしたちが最初なのです。国家というものは自分の問題や政府を守ることにだけに専念し、人間は歴史の中に消えていくのです」¹⁸、とチェルノブイリ原発事故をめぐる国の隠蔽する体質を白日にさらした記録もあります。

(3) 世界はシリアの難民を見放してしまっただのか

a. 第二次世界大戦以来の最大の人道危機

世界最古の文明の発祥地チグリス・ユーフラテス河畔のシリアは、もはや終わりのない人類最大の悲劇の大地と化してしまいました。

シリアの人口 1856 万 4000 人(2016 年国連推計)の内、国内避難民の数 650 万人、シリア国外難民の数 515 万 6909 人(UNHCR 2017 年 7 月 6 日現在)¹⁹。

「反政府勢力が発射するロケット弾も日常的な脅威となっている。最初の 2~3 年は、多くの人がいざいざ内戦は終わると考えて、親戚や友達の家を身を寄せていた。だがもう無理だった。子ども達は何年も学校に行っていない。破壊された家を建て直すこともできない。それならこの国を出るしかない」²⁰。

殺りくの温床と化してしまった美しい国での殺人は日常茶飯事になり、世界のニュースでも取り上げられなくなっています。

「シリア内戦は、2016 年末に北部の要塞アレッポを制圧した政権軍が軍事的優位を固める。……国連人道問題調整事務所によると、一連の戦闘は昨年 12 月 1 日から今年 9 日までに約 10 万人の避難民を生んだ」²¹。

b. 『聖クルアーン』の影響

シリアでは「同じ」イスラーム教徒たちが、互いに殺し合っているという印象を持つ人も多いかも知れません。たとえば、シーア派とスンニ派、キリスト者とイスラーム教徒の対立が宗教戦争の原因だと本気で信じている日本人も珍しくありません。実際はそうではありません。たとえば結婚するにしても、宗教が異なっても夫婦生活を営み、家族が増えていくのです。ですから、イスラーム教徒であっても地元のキリスト教会に半分行っています。イスラーム教徒であっても、クリスマス期間中、預言者イーサ(イエス)の生誕を祝うことを一年で一番楽しみにしていると言います。キリスト教会へ足を運ぶのです。

一方、クリスチャンもモスクに行き、「インシャーラ」(アラーのおぼしめしがありますように)と祈ります。中東に滞在して、明確に体験したことは、庶民にとり宗教間の対立はまったくないということでした。

シリアの首都ダマスカスの一番有名なイスラーム教寺院モスクには、有名な3つの塔があります。真ん中がイーサ(イエスのアラビア語)の塔と称して、その塔に再臨されると言い伝えられています。残念なことに1月8日に空爆でダマスカスの最大の名所であるモスクも破壊されてしまいました。



ダマスカスの美しい世界最古のイスラーム教寺院ウマイヤド・モスク。最後の審判の時にイエスが降臨するというキリストのミナレット(アラビア語の原義で「光の塔」という塔は、兄弟宗教としてイスラーム教徒によっても礼拝の対象となっていました。

ちなみに、イスラエル国はユダヤ教ですが、壁の向こうに追いやられて、仕事、教育、医療などの差別を受けているパレスチナ人はキリスト者が多いのも現実です。宗教対立は、むしろ政治家が利用しているにすぎません。背後に米国の軍事進出の戦略があることが見えてきます。

「アッサラーム・アライクム」(こんにちは)とこちらが言うと、同じ言葉が返ってくることはありません。「ワ・アライクム・アッサラーム」(こんにちは)と返答されます。はじめは、自分のあいさつのアラビア語が通じなかったのではといぶかしげに思ったものです。実は、宗教に根づいた生活が言葉に表れています。「挨拶を受けたときはもっと丁寧な挨拶をするか、せめて同じほどの挨拶を返せ」(『聖クルアーン』4:86)に基づいて、返答は変化し、もっと丁寧になっていることがわかるのは、2回目の訪問を待たねばなりません。親しい友同士の会話のやりとりでも、違っています。「マルハバン」(やあ)に対して、「アフワン」(やあ)と返答しています。

「クルアーンは聖書の正しさを証明するためにある」と宣言している箇所が数多くあります。そればかりではなく、「ユダヤ教徒もキリスト教徒も天国へ行く」とも書いています(『聖クルアーン』2:59 (62), 3:19(20))。

したがって、「宗教を単なる口実にして政治的な優位を求め、覇権を求める動きであって宗教上の争いとは無関係である」²²⁾と、述べられているように、戦争、紛争、対立の原因を宗教と決めつけると真実がわからなくなります。

c. 最後の和平の機会

憎悪を克服しようともがくシリア人に「共感」し感情移入をしたいものです。

シリア人は5000年近くの歴史をもつ優秀な民です。

古代オリエント時代に、それまで偶発的にしか生まれることがなかったガラス質の物体を、製品として生産する技術が生まれました。ガラス容器がつくられ始めるのは、シリア・メソポタミアにおいて紀元前16世紀後半です²³⁾。

シリアで驚くのは寄木細工による家具，調度品の職人に出会うことです。青蝶貝，白蝶貝，黒蝶貝などをあしらった工芸品をつくっています。箱根の寄木細工はシルクロードの最西端のシリアから伝わった技術です。蝶貝は真珠と関係があり，天然真珠の原産地として，日本人が養殖を学んだ地域でもあります。

今アメリカで最も強い企業の一つアップルの創業者スティーブ・ジョブズ[1955-2011]は1954年にアメリカに渡ったシリア移民の子でした。

日本に「居場所」を求めて，難民認定を待っているシリア人たちがいます。日本に来て，一年，二年がたつのに認定がされません。認定がないと，人間らしい生活はできません。就労することもできず，ストレスだらけの宙ぶらりんの生活です。

日本にも400人以上のシリアの人が暮らしていますが，これまで難民と認定された人はわずか6人です。難民として認定されないと，就労支援や語学支援などの公的サービスが受けられません²⁴⁾。日本がいつ破綻してもおかしくない財政危機に陥っているのに，自称愛国者の弱者切り捨て右翼は，貧乏人を叩き，テレビはその片棒をかついでいるのです²⁵⁾。



そのほとんどは女性や子供なのです。なぜならシリアの男たちは内戦の地と化した国から，せめて自分の妻と子どもたちだけでも何とか生き延びてほしいと国から脱出できるようにしているからです。

難民が行き着く場所は，難民キャンプです。空き地の一角に簡素なテントを張ったもので，逃げてきた家族単位に集団生活をしています。

国連は毎月100ドルを支援するといいますが，マリッシュの難民キャンプでは，2017年に一度も一円も支払われていないと嘆息していました。

国際社会はまったくと言ってよいほどシリア情勢に関心を示しておらず，難民のケアに必要な支援金はほとんど足りていません。したがって，水も足りなければ食料も足りません。被災地にライフラインがない状態のようです。教育も行き届かなければ，医療も足りません。にもかかわらず難民の数はさらに増えていこうとしています。

アレッポ住人の Mahanmad Ali モハンマッド・アリさん(40才)から詳細を聞いて，私たちは背筋が冷たくなりました。

シリアのアレッポは徹底的に爆撃により，破壊されました。私たちが孤児の家を作ろうとしている地です。学校も，病院も，家もすべて廃墟となりました。



シリア第2の都市アレッポの惨状

アレッポで生産されていた石けんは世界でもっとも有名です。「イタリアにこの石けんの作り方を教えたのは、フェニキア人(今のシリア)です」²⁰⁾。

人類最大の悲劇は人類の文明の発祥の地を襲っています。もし私たちがエゴに自己の利得に走り、食欲に溺れ続けるなら世界はどうなるでしょうか。痛めつけられている難民に無関心であり、愛が冷え切っていてよいものでしょうか。石けんできれいに身体の汚れを落とすように、地球全体をすがすがしい環境にするために覚醒する必要があります。

「もう戦争、内紛、戦禍はこりごりだ」、という声が聞こえますか。

「剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず もはや戦うことを学ばない」(イザヤ 2:4)と国連の基部に記されている言葉を実践しましょう。

<結論>

昨年は、ICAN＝核兵器廃絶国際キャンペーンがノーベル平和賞を受賞しました。地球上の多くの国々は大国の核保有にいつもおびやかされてきました。平和を希求する人類は核兵器と共存できません。「核兵器は必要悪ではなく絶対悪」とサーロー節子[Thurlow 1932-]さんは語りました。

人道上最大の悲劇を被っているシリアにおける戦争も必要悪ではなく絶対悪ではないでしょうか。「剣をとる者は、剣によって滅びる」(マタイ 26:52)。

「憲法9条」が国連で採択されるなら、ノーベル平和賞受賞への道が開かれることを期待します。

「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」(略称 推す会)は、今年も有資格者の130人により、受賞を目指してオスロの委員会に1月末日に発信をしました。内容は昨年と同様です。「憲法9条」が世界の宝、人類の希望になるようにという願いがこもっています。

戦前のファシズムのような全体主義は絶対的な権力を持ちます。人のいのち、人権、安寧を顧みませんでした。ですから憲法によって国の最高権力者をも縛る安全弁がどうしても必要になります。法律は民の権利や紛争に規制力を持ちます。一方、憲法は権力をもつ君主、体制に対して拘束力を持ちます。「朕は絶対で、お前たちがまちがっている」と君主が言うならば、だれも逆らうことはできません。人間が自分自身を絶対視し、神になるなら倒錯行為です。暗黒時代、闇、死に突入です。神を絶対にする宗

教性をないがしろにし、人間を絶対にするなら抑圧、暴力、いさかいが生じるでしょう。

ヨーロッパにも軍事強化の動きが芽生えています。「歴史は繰り返す」のです。歴史を知ることは、構造的暴力を自覚することにつながります。スウェーデンに続いて、フランスも徴兵制を復活しようとしています。一方、良心的兵役拒否を法制化している国々も増えてきました。アメリカ、イギリス、ドイツ、ベルギー、オランダ、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、イスラエル、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、オーストリア、ブラジルなどです。

しかし、日本のマスコミは、兵役拒否の国連の論議に無関心なのはどうしてでしょうか。社会の人権意識が希薄なことや、安倍晋三政権による憲法9条を殺す勢いに消されています。

「良心者」(英語 conchie コンチ 良心的兵役拒否者 Conscientious Objector の短縮形)としては、憲法9条を護るより「活かせる」ような、平和な日本であってほしいと願います。

日本人が憲法9条のノーベル平和賞を受賞し、人類が願ってきた戦争に終止符を打つうねりが世界の憲法に連鎖されることを願います。

出典

- 1) 「MOFA 外務省 海外安全ホームページ」(外務省 2017年12月28日)。
「レベル 4: 退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。
- 2) 『自己責任論の嘘』(宇都宮健児 ベストセラーズ 2014年14頁)。
- 3) 『中東入門書』(清水紘子「来て見てシリア」ミスター・パートナー出版部 1999年311頁)。
- 4) 『ヨルダン・シリア聖書の旅』(牛山剛 ミルトス 1988年58頁)。
- 5) 『Newsweek』不可解なシリア攻撃論(Newsweek Japan 2013年9月13日付 28頁)。
- 6) 『レバノンから見たアラブの苦悩 アメリカの不正義』(天木直人 展望社 2003年91-92頁)。
- 7) 「H.R. マクマスター とアメリカ帝国の悲劇」(Daniel Bessner 2017年5月19日)。
- 8) 『朝日新聞』(2014年6月15日付)。
- 9) 『テレビ・新聞が決して報道しないシリアの真実』(国枝昌樹 朝日文庫 2016年14-15頁)。
- 10) 『職場観光～シリアで最も有名な日本人』(藤本敏文 幻冬舎 2015年276頁)。
- 11) 『レバノンから見たアラブの苦悩 アメリカの不正義』(同 113頁)。
- 12) 『日本経済新聞』(2018年2月10日付)。
- 13) 『イスラムを知らないと世界が見えない』(佐々木良昭 曜曜社出版 1987年67頁)。
- 14) 『レバノンから見たアラブの苦悩 アメリカの不正義』(同 108頁)。
- 15) (同 116頁)。
- 16) 『中東特派員はシリアで何を見たか』(津村一史 dZERO 2015年85-86頁)。
- 17) 『政府は必ず嘘をつく』(堤 未果 角川マガジズ 2012年19頁)。
- 18) 『チェルノブイリの祈り』(スベトラーナ・アレクシェービッチ 岩波書店 2015年303頁)。
- 19) 『中日新聞』(2017年7月30日付)。
- 20) 『シリア難民 人類に突きつけられた21世紀最悪の難問』(パトリック・キングズレー ダイアモンド社 2016年176頁)。

- 21) 『朝日新聞』(2018年1月12日付)。
- 22) 『レバノンから見たアラブの苦悩 アメリカの不正義』(同 288頁)。
- 23) 『古代ガラス』(谷一 尚, 塩田紘章 里文出版 2001年 3頁)。
- 24) 『アムネスティ・ニュースレター』vol.470 (アムネスティ・インターナショナル日本 2017年7,8月号 11頁)。
- 25) 『この国の冷たさの正体』一億総「自己責任」時代を生き抜く(和田秀樹 朝日新書 2016年 70頁)。
- 26) 『石けん屋さんが書いた石けんの本』(三木春逸, 三木晴雄 三水社 1994年 28頁)。